

**安東省菴 日本に亡命し困窮していた明の学者朱舜水の唯一の弟子となり、その生活を支えた。**

あんどうせいあん  
元和大殉教・1622 =

立花宗茂が藩を整備し始めてまもない筑後国柳河城下で、上級家臣安東親清の次男に生まれる。

立花宗茂に可愛がられ、その養嗣子忠茂に近侍し、江戸へ付き従いながら育つ。

糸割符拡大・1631 = **9歳** :  
**徳川秀忠没**・1632 = 10歳 :

島原の乱始・1637 = 15歳 : 小瘡で病臥していた際、天草・島原の乱が起こり、宗茂・忠茂に従い、痛みに耐えて参陣。  
島原の乱終・1638 = 16歳 : 乱平定後、忠茂が2代藩主となる。江戸に上り、学問に熱中するが、武士仲間から非難中傷され、

寛永飢饉始・1640 = **18歳** :  
**家光鎖国完成**1641 = 19歳 : 母の死去後、  
初の高札・1642 = 20歳 : 病に倒れると、柳河に戻り、

**明滅亡**・1644 = 22歳 : この年、**明が滅亡**。以後、**明朝復興のための活動を支援する軍資金集めのため、朱舜水が度々長崎を訪れるようになる。**

僧について勉学し、作詩の力も磨いて行くうち、

慶安御触書・1649 = **27歳** : **意を決して、京都へ赴き、松永尺五に入門。**  
**以後、寝食を忘れるほど朱子学を中心に勉学に没頭し、**

**徳川家光没**・1651 = 29歳 :

野郎歌舞伎始1653 = 31歳 : **\*無理がたたって発病、治療のため長崎に赴き、明が減びて亡命してきた医師陳明德に出会い、以後、度々長崎に赴いて交流するうち、亡命明人の僧独立を紹介され、独立から明の大儒学者朱舜水のことを教えられると明德に書を託して弟子入りを懇願、その熱意に認められ、以後、文通により教えを受けるうち、**

この間、朱舜水から陽明学ことも学んで、両学の対立を超える古学の立場が、以後の藩学の流れとなる。

**明暦の大火**・1657 = 37歳 :

人身売買禁止1658 = **36歳** :

朱舜水帰化・1659 = 37歳 :

・1660 = 38歳 :

回想録「扇銘」。**明朝復興を断念した朱舜水が日本に亡命、初めて対面すると、まず帰化のために奔走して実現。師より豊かな生活をするわけにはいかないと、自らの俸禄の半分を差し出すと、感動した朱舜水が中国の孫に宛てて手紙し、省菴の名は中国でも広まる。以後、献身的に尽くし、師弟から親友となるとともに、自らの思想も豊かに広がって行く。**

殉死の禁止・1663 = 41歳 :

・1664 = 42歳 :

諸宗寺院法度1665 = 43歳 :

**酒井忠清大老**1666 = 44歳 :

入欽砲出女令1667 = **45歳** :

**以後も頻りに文通しながら、柳川藩儒として教育に専念。**

・1676 = **54歳** :

**徳川綱吉將軍**1680 = 58歳 :

好色一代男・1682 = 60歳 : **朱舜水の訃報に接し、長文の「朱先生を悼むの文」を認め、師との交流を偲んで問答集「心喪集語」を編纂、朱舜水が長崎にいた当時、ある人から楠木正成・正行父子の肖像に賛を書いて欲しいと頼まれた際、父子を知らぬ朱舜水のために、伝記を書いて献呈したことがあったが、**

**堀田正俊暗殺**1684 = 62歳 :

**出世景清初演**1685 = **63歳** :

**生類憐令**・1687 = 65歳 : **さらに「朱先生を夢む」を書いて、偲び続ける。**

**その後、北宋の儒学者で、弟子たちに学問を教えながらも、自然とともに悠々自適の生活を送った邵康節の書物に影響されて、そういった生き方を実践し、**

**芭蕉+師宣没** 1694 = **72歳** :

**生類憐令頂点**1695 = 73歳 :

**\*「自らの伝記や行状は一切書くな」と遺言して、**

松の廊下事件1701 = 79歳 : **没した。**

疋田啓佑「儒者」、「人づくり風土記(福岡)」, 平凡社百科事典,